

令和元年度（第18回）総会
議事録

■開催日時 令和2年9月27日（日）
午後1時30分～3時05分
開催場所 JICA 地球ひろば会議室を基点にZOOM利用のリモート開催

■出席者氏名 計9名
（敬称略）

設楽 知弘	（理事長）	
谷 敦	（副理事長）	（議事録作成者）
相川 正義	（事務局長）	
徳永 達己	（理事）	（議事録署名人）
藤原 千華	（監事）	（議事録署名人）
松崎志津子	（監事）	
小泉 新一	（監事）	
荒木 元世	（会員）	（議長）
渡辺 淳一	（会員）	

■会議の次第

- 1、開会
- 2、理事長挨拶
- 3、出席者及び定足数の確認
- 4、議事並びに資料の確認
- 5、議事録作成者及び議事録署名人の指名
- 6、議長選出
- 7、議題 決議事項
 - 第一号議案 令和元年度事業報告書の承認
 - 第二号議案 令和元年度収入支出状況報告と財産目録の承認及び会計監査に関する件
 - 第三号議案 令和2年度事業計画及び予算に関する件
- 8、報告事項、その他
- 9、閉会

■議事録経過の概要及び議決結果

1、開会宣言

定刻に至り相川（事務局長）より総会が開会された。

2、理事長挨拶

設楽（理事長）より、今年はコロナの影響があり、多くの行事、協力隊の派遣が中止となるなど、E V A Aとしても大きな影響を受け、この総会も初のリモートとなったが、沢山の方のご参加をいただきありがたい。短い時間ではあるが相互の活発な意見交換の場としたいとの挨拶があった。

3、出席者及び定足数の確認

総会は、会員本人出席 9 名と本人の委任状による代理出席 1 9 名の合計 2 8 名で、会員 8 名以上出席かつ会員数 4 3 名の過半数である 2 2 名に達しており有効である旨を確認した。

4、議事並びに資料の確認

相川（事務局長）により、総会の議事及び資料の説明があり、出席者はあらかじめ電子送信によって配布された資料（令和元年度事業報告書、令和 2 年度活動計画書、同予算案）及び内容を確認した。

5、議事録作成者及び議事録署名人の指名

議案審議に先立つ議事経過をまとめるにあたり、議事録作成者に谷（副理事長）が推薦され、賛否を求めたところ全員異議なくこれに賛成した。また、議事録署名人には徳永（理事）、藤原（監事）が推薦され、賛否を求めたところ全員異議なくこれに賛成した。

6、議長選出

設楽（理事長）より議長に荒木（会員）が推薦され、賛否を求めたところ全員異議なくこれに賛成した。

7、議案の審議及び結果

第一号議案 令和元年度事業報告書の承認

荒木（議長）は第一号議案を審議することとし、理事会に説明を求めた。

設楽（理事長）は第一号議案に関して、配布資料の「令和元年度事業報告書」を用いて、令和元年度の事業 ①日本建築学会での松崎（監事）の発表、②訓練中ボランティア支援活動（2 回）、③フェスタ参加出展（1 回）に関する内容と成果の報告、ならびに本年 3 月以降コロナの影響による協力隊まつり、訓練中ボランティア支援活動中止の報告と令和元年度収支の説明を行った。

続いて谷（副理事長）が訓練中ボランティア支援活動につき、訓練所担当者と調整の上、2 0 1 9 年度 2 次隊、3 次隊のそれぞれにつき、1 名の講師派遣と、1 ～ 2 名の講師による初のリモート（電子メール使用）での支援活動を実施したとの説明を行った。

荒木（議長）が議案に関して確認する旨を諮ったところ、異議なく承認可決された。

第二号議案 令和元年度収入支出状況報告と財産目録の承認及び会計監査に関する件

荒木（議長）は第二号議案を審議することとし、理事会に説明を求めた。

設楽（理事長）の求めに応じ小泉（監事）は第二号議案に関して、配布資料の「令和元年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書」を用いて、令和2年9月12日に小泉（監事）により監査が行われた、令和元年度収入支出状況を、①収入の部 ②支出の部ごとに報告を行った。

その後、小泉（監事）は配布資料の「令和元年度特定非営利活動に係る事業会計財産目録」を用いて、令和元年度の財産目録の状況を、①資産の部 ②負債の部ごとに報告を行った。

小泉（監事）より訓練中ボランティア支援活動の交通費支出がないことについての補足説明が求められ、谷（副理事長）から、実際には2回の講師派遣で支出が発生したはずだが、講師からの経費請求が会計年度末迄になされず、交通費支出は「0」の形になったとの説明がなされた。

徳永（理事）から、途上国での領収証入手の困難さ等で不測の事態が生じた場合の救済等の例が話され今回そうした措置の可能性がなかったかにつき質疑があり、谷（副理事長）及び松崎（監事）から、派遣講師への連絡はこの半年間で数え切れないほど行い続け、請求期限についても伝え続けたが、それでも請求されなかったのでやむを得ずこうした形となったとの説明がなされた。

荒木（議長）が議案に関して確認する旨を諮ったところ、異議なく承認可決された。

第三号議案 令和2年度事業計画及び予算に関する件

荒木（議長）は第三号議案を審議することとし、理事会に説明を求めた。

設楽（理事長）は第三号議案に関して、配布資料を用いて、令和2年度の事業計画の方針について、活動計画を提示した。主な活動内容及び収支として、会費収入、協力隊まつりへの参加、寄付金による収入を見込んでいる。支出は、定例会（会場使用料）を含む通常管理費、必要に応じて訓練中ボランティア支援活動への必要経費補助が提案された。

渡辺（会員）より、新年度予算案の中で寄付金の額が1万円とされている根拠が問われ、設楽（理事長）から例年の実績に基づくとの説明があり了承された。

渡辺（会員）が、従来のE V A Aの中心的な職種である建築や都市計画の隊員が減少していることを踏まえ、将来を展望した計画と、新年度の予算への反映について質疑があり、設楽（理事長）及び徳永（理事）から、以下の回答がなされた。

かつての村落開発に近い職種としてコミュニティ開発という職種などは関連職種と言える。また国内向けだが「日本を元気にする会」という団体等にも地域に密着しコミュニティを活性化するという点でE V A Aとの共通点は見いだせる。会員獲得に直結はしないかもしれないが今後の月例定例会、シンポジウム開催等を通して連携を深めていければと考えている。

また一方で、建築的な知識が殆どないNGOが建築のプロジェクトを実行するような状況もあり、そうしたところでもE V A Aの知見を活用する可能性はある。

コロナ禍でいろいろな活動が困難な中ではあるが、今までのイベント参加（シンポジウム開催）、訓練中ボランティア支援活動以外に、将来を見据えたE V A Aとしての“新しい柱”、活動の可能性を探る年にしたいと思っている。

荒木（議長）が議案に関して確認する旨を諮ったところ、異議なく承認可決された。

8、報告事項、その他

松崎（監事）より、例年秋に開催されていた日本建築学会も今年はコロナの影響で中止となったが、E V A A 名で日本建築学会への論文発表や建築誌への寄稿などを予定しているとの報告があり、設楽（理事長）から、建築雑誌の記事は半年後に P D F 等での閲覧が可能になると思われるので、その際にはまたお知らせいただきたいとの申し出があり了承された。

予定していた議案と報告は以上であった。

総会の議決事項をすべて終了したため、荒木（議長）は解任された。

9、閉会

相川（事務局長）により閉会が宣言され、総会は午後 3 時 5 分に終了した。

上記のとおり令和元年度第 18 回総会の議事に相違ないことを証するため、ここに議事録署名人が記名・捺印する。

議事録署名人

藤原 4 華



議事録署名人

徳永 達己

